キャリタス就活 [career+]

2027年卒
Vol.03

11 月後半時点の就職意識調査

キャリタス就活 学生モニター2027 調査結果（2025 年 12 月発行）

2027年卒学生の就職戦線の見方や就活準備状況は、先輩たちに比べてどのように変化しているだろうか。キャリタス就活・学生モニターを対象に、11 月後半時点での就職意識および就職活動の準備状況などを尋ねた。同時期に実施した過去の調査結果とも比較しながら特徴を分析したい。

1．就職戦線の見方

○先輩たちより「厳しくなる」と見る学生が 7 割超（71.6%）
○早期化の進行を警戒する学生が目立つ。採用規模の縮小を懸念する声も

2．11 月後半時点の志望業界

○志望業界が「明確に決まっている」35.3%、「なんとなく決まっている」47.2%
○1 位「インターネットサービス」、2 位「銀行」、3 位「情報処理・ソフトウエア」

3．業界研究で役に立っていると感じるツールや情報源

○「業界研究イベント」が最多（42.2%）。「就職情報サイトの業界特集」「SNS」が僅差で続く

4．企業選びのこだわり度合い

○「社風・人」「仕事内容」「給与・待遇」にこだわる学生が 9 割を超える

5．就職活動の中心におく企業の規模

○「業界トップの企業」19.2%、「大手企業」44.3%。大手志向の学生は今年も 6 割を超える

6．就職活動の開始時期

○「3 年生の 4 月」の集中度合いが高まった（36.4%）。活動開始の早期化が見て取れる

7．インターンシップ等（※）の参加状況

○「1 日以内のプログラム」平均 7 社参加。「5 日間」は 1.6 社、「2 週間以上」は 1.1 社
○大半が参加後のフォローを経験。フォローによって志望度が上がった学生は 6 割強

8．今後のインターンシップ等への参加予定

○全体の 7 割強（74.8%）が参加の意向を示す。参加したい時期は「12 月」「1 月」の順に多い

9．11 月後半時点の本選考受験状況と内定状況

○「本選考を受けた」49.4%で、平均 3.2 社受験。「内定を得た」学生は全体の 15.9%

10．年内の活動（準備）の進め方・方針

○「早期選考を受けたい」70.9%、「インターンシップ等にたくさん参加したい」53.5%の順

※「インターンシップ」に限定せず、オープン・カンパニー等も含めて尋ねた
※「内定」には、内々定を含む

調 査 概 要

調 査 対 象 ： 2027 年 3 月に卒業予定の大学 3 年生（理系は大学院修士課程 1 年生含む）
回 答 者 数 ： 1,010 人（文系男子 203 人、文系女子 481 人、理系男子 193 人、理系女子 133 人）
調 査 方 法 ： インターネット調査法
調 査 期 間 ： 2025 年 11 月 14 日～21 日
サンプリング ： キャリタス就活 学生モニター2027
調 査 実 施 ： 株式会社キャリタス／キャリタスリサーチ

キャリタス

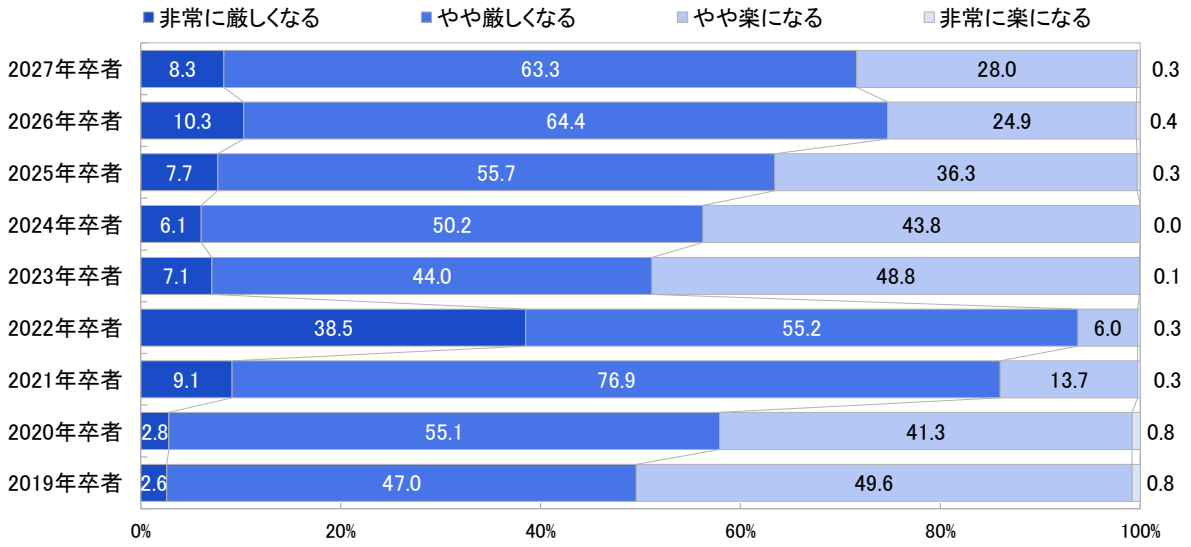
1．就職戦線の見方

2027年卒予定の就活生は、自分たちの代の就職戦線が 1 学年上の先輩たち（2026年卒者）に比べてどのようになると見ているのか、その見通しを尋ねた。「やや厳しくなる」という回答が 6 割強で最も多く（63.3%）、「非常に厳しくなる」（8.3%）を合わせると 7 割を超える（計 71.6%）。前年調査（計 74.7%）に比べればやや減少したものの、多くの学生が厳しくなると予想している。

厳しくなると回答した学生のコメントを見ると、早期化への言及が目立つ。先輩たちよりも選考や内定の時期が早まると見て、乗り遅れを心配する声や、インターンシップに参加できなかった企業の内定獲得がより困難になるとの予想も少なくない。国際情勢の不安定さや、物価高による経済の悪化に加え、AI の台頭による採用人数縮小などを懸念する声も寄せられた。

一方で、楽になると回答した学生からは、売り手市場の継続を挙げる声が多い。実際に企業の人材確保に積極的な姿勢を見て「楽そうだ」と感じる様子もみられた。早期化については、早くから選考を受ける機会が増えると前向きに受け止める声もあった。

＜就職戦線の見方＞



■「厳しくなる」と見る理由

○早期選考の囲い込みによって、本来の本選考での採用予定数が少なくなり、狭き門になりそう。　＜文系男子＞
○インターンからの早期選考など、早めに対策していないと希望する会社に入社することは困難になると考えられる。　＜理系男子＞
○選考の早期化がより苛烈化し、早期の重要度を各社ともに高いレベルにおいていると感じる。　＜文系男子＞
○国際情勢が不安定で、経済にも影響しているとの報道や実感があり、就職に影響するのではないかと思う。　＜文系女子＞
○物価高に伴う人件費の上昇により、企業は人件費を削減しようとすると思う。　＜文系男子＞
○AI の導入が進み、人件費削減の取り組みがいくつかの企業で進んでいるという情報を聞いた。　＜文系女子＞
○売り手市場だと言われていたけど実際には甘くなかったと、26 卒の先輩から聞いたから。　＜理系女子＞

■「楽になる」と見る理由

○売り手市場が続いていて、人手不足は年々深刻になっていっているから。　＜文系女子＞
○各社が新卒人材の確保のために、積極的な採用戦略を打ち出しているように思える。　＜理系男子＞
○売り手市場は変わらず、早期化にも慣れが生じていると思うから。　＜文系男子＞
○早期化しており、選考を受けるチャンス、練習できる機会が増えたから。　＜理系女子＞

2．11 月後半時点の志望業界

志望業界の決定状況を尋ねたところ、「明確に決まっている」という学生は3割強（35.3%）。「なんとなく決まっている」（47.2%）を合わせると8割を超え（計82.5%）、「決まっていない」という回答は2割を下回る（17.6%）。文系に比べ理系の方が決定している学生が多く、特に理系男子はおよそ半数が「明確に決まっている」と回答した（49.2%）。

次に、「なんとなく決まっている」と回答した学生も含め、志望業界のある学生に具体的な業界を尋ねた（40業界から選択）。今年もIT業界の人気ぶりが目立ち、「情報・インターネットサービス」が全体の1位（19.2%）、「情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト」が3位に入った（16.1%）。これらは理系男女の1位・2位を占めているが、文系においても上位業界に挙がっている。

全体で2位の「銀行」（17.6%）は、主に文系学生の支持を集め、前年（3位）から順位を上げた。特に文系男子では1位で、4人に1人が志望していると回答した（25.5%）。なお、文系女子の1位は「マスコミ」（24.6%）で、「銀行」は3位。

＜志望業界の決定状況＞

（%）

	全　体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	35.3	34.2	35.5	28.5	49.2	39.1
なんとなく決まっている	47.2	45.6	45.8	51.8	36.8	49.6
決まっていない	17.6	20.2	18.7	19.8	14.0	11.3

＜志望業界（上位 15 業界）＞

※5つまで選択　（%）

	全　体		文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
1	情報・インターネットサービス ②	19.2	銀行	25.5	マスコミ	24.6	情報・インターネットサービス	29.5	情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト	28.0
2	銀行③	17.6	保険	15.8	情報・インターネットサービス	18.4	情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト	28.9	情報・インターネットサービス	25.4
3	情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト①	16.1	調査・コンサルタント	14.5	銀行	17.9	電子・電機	25.9	素材・化学	21.2
4	マスコミ⑤	14.3	官公庁・団体	13.9	官公庁・団体	16.6	素材・化学	15.1	医薬品・医療関連・化粧品	
5	官公庁・団体⑧	12.8	運輸・倉庫	13.3	水産・食品	13.2	機械・プラントエンジニアリング	14.5	建設・住宅・不動産	18.6
6	建設・住宅・不動産⑧	12.0	情報・インターネットサービス	12.7	エンターテインメント	12.7	調査・コンサルタント	13.3	水産・食品	
7	水産・食品 ④	11.2	エンターテインメント		情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト	12.4	建設・住宅・不動産	12.0	電子・電機	16.1
8	エンターテインメント⑰	10.4	マスコミ	12.1	建設・住宅・不動産	10.4	自動車・輸送用機器		自動車・輸送用機器	11.0
9	調査・コンサルタント⑥	10.3	建設・住宅・不動産	11.5	運輸・倉庫		通信関連		エネルギー	9.3
10	運輸・倉庫 ⑯	9.5	商社（総合）		ホテル・旅行	10.1	銀行	9.6	精密機器・医療用機器	
11	電子・電機⑩	9.4	エネルギー	10.3	教育		エネルギー		通信関連	8.5
12	エネルギー⑬	9.0	情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト	9.7	商社（専門）	9.8	農業・林業・鉱業	8.4	機械・プラントエンジニアリング	
13	商社（総合）⑩	8.8	水産・食品	9.1	人材サービス・人材紹介・人材派遣	9.3	精密機器・医療用機器	7.2	官公庁・団体	7.6
14	素材・化学 ⑦	8.7	リース・レンタル	8.5	商社（総合）	9.1	鉄鋼・非鉄・金属製品		農業・林業・鉱業	6.8
15	保険⑮	8.6	証券・投信・投資顧問		調査・コンサルタント	7.8	官公庁・団体	5.4	銀行	5.9
							水産・食品		商社（総合）	

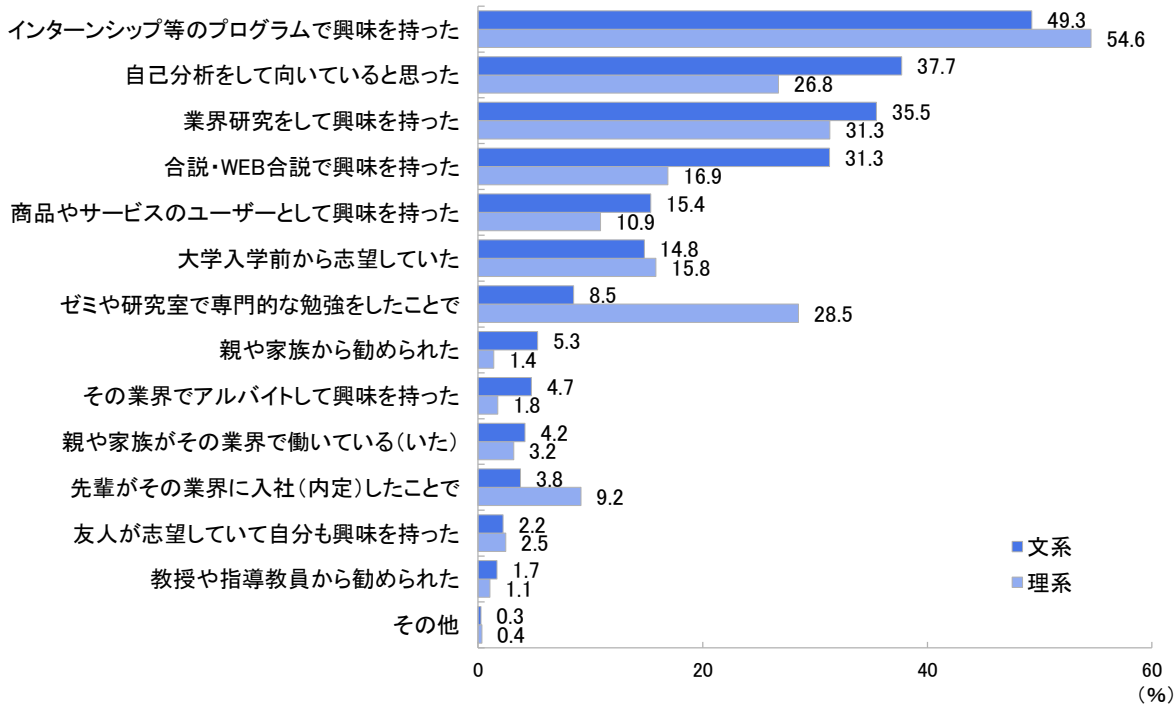
※○の中の数字は前年同期調査の全体順位

現時点で第 1 志望としている業界について、志望するに至ったきっかけを複数回答で尋ね、文理別に比較した。

文理とも「インターンシップ等のプログラムで興味を持った」が最も多く、およそ半数が選んだ（文系 49.3%、理系 54.6%）。プログラムへの参加を通して業界に興味を抱いたり、業務体験で自己の適性を感じたりして、志望業界として意識したという声が多く寄せられた。文系は「自己分析をして向いていると思った」「業界研究をして興味を持った」「合説・WEB 合説で興味を持った」が 3 割を超える。

一方、理系は「ゼミや研究室で専門的な勉強をしたことで」が文系よりも 20 ポイント高い（28.5%）。理系学生は大学で身に着けた専門性を生かせる就職先を志望する者が多いことがわかる。

＜第 1 志望の業界を志望するに至ったきっかけ＞



■志望するに至った具体的なきっかけ

○メーカーのインターンシップに参加した時、仕事内容が非常に楽しく感じ、自分のやりたいことができることを実感したため。　＜電子・電機／理系女子＞

○インターンでお会いした社員さんの熱意やプロ意識が高く、共に働きたいと思った。＜証券・投信／文系男子＞

○自己分析をする中でやりがいや社会貢献性を重視したいと考えるようになり、教育や人材育成に興味を持った。　＜教育／文系女子＞

○先輩が入社しており、先輩の話を聞く中で自分の性格や自己分析がその業界と合っていると思った。　＜機械・プラントエンジニアリング／理系男子＞

○説明会を聞いてその業界が求める人物像と自分の性格が似ていたから。　＜運輸・倉庫／文系女子＞

○適職診断の結果から IT 職種に興味を持ち、説明会やインターンに参加して面白そうだと思った。　＜情報・インターネットサービス／文系女子＞

○経済学部所属であり、ゼミで金融経済について専攻していく中で、知識が活かせる場として向いている業界を研究した結果、行き着いたのが、銀行、証券だった。　＜銀行／文系男子＞

○昔からコンピュータが好きで IT 技術を用いて人々を支える仕事に就きたいと考えているから。　＜情報処理・ソフトウエア／理系女子＞

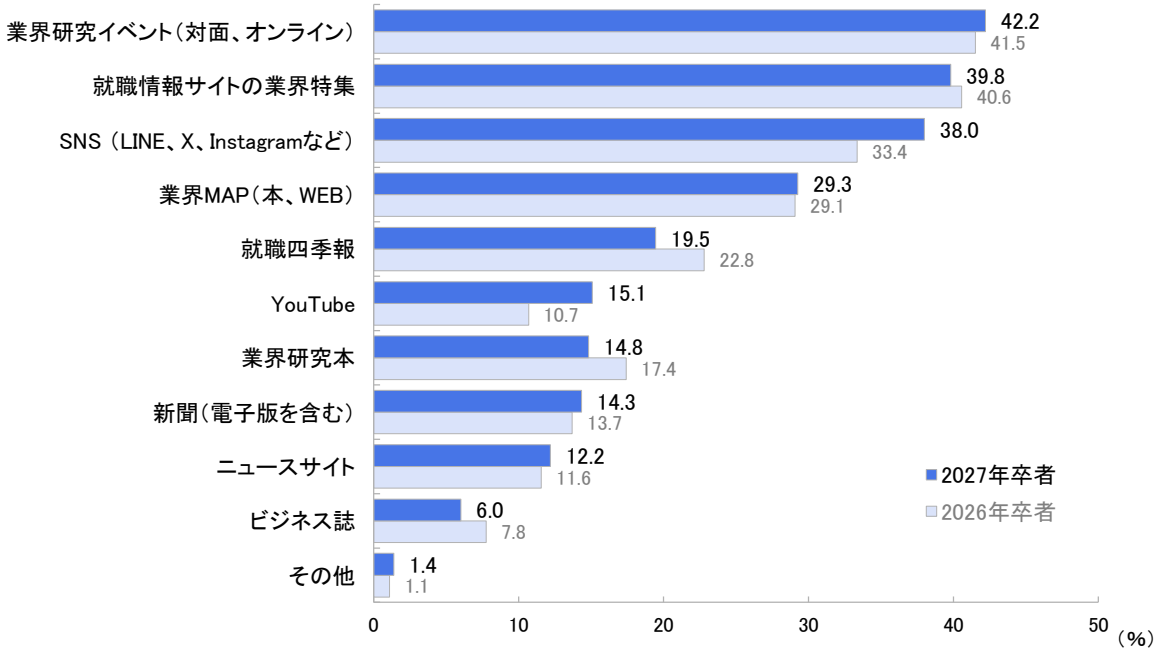
○入院した際に、医療従事者の方々に憧れた。文系でも医療に携われる業界だから。　＜精密機器・医療用機器／文系女子＞

※＜第 1 志望の業界／属性＞

3．業界研究に役立つツール

業界研究を行う上で役に立つと感じているツールを尋ねたところ、「業界研究イベント」が 42.2%で最も多かった。次いで「就職情報サイトの業界特集」「SNS」が 4 割弱で続く（39.8%、38.0%）。「業界 MAP」も約 3 割が選んだ。以降はポイントが分散しており、イベントや情報サイトで気になった業界の情報を他のツールを使って集めるなど、複数のツールを掛け合わせたり、用途別に使い分ける学生が多いとみられる。なお、「SNS」「YouTube」は前年調査に比べポイントが大きく伸びた。

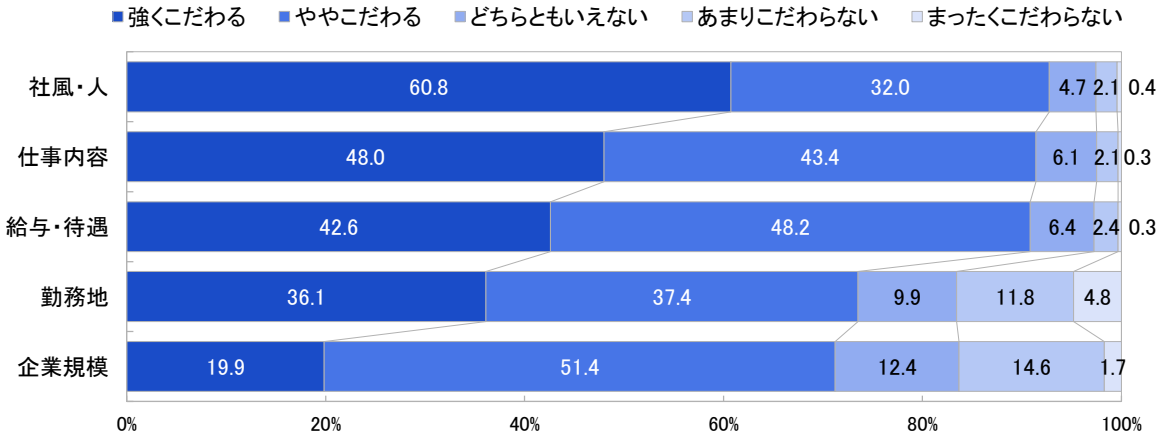
＜業界研究で役に立っていると感じるツールや情報源＞



4．企業選びのこだわり度合い

会社選びの軸として学生がよく挙げる 5 つの項目について、こだわりの度合いを尋ねた。「強くこだわる」が最も多いのは「社風・人」（60.8%）で、「ややこだわる」（32.0%）をあわせると 9 割超（計 92.8%）。「仕事内容」や「給与・待遇」についても、「こだわる」と回答した学生は合計で 9 割を超え、多くの学生にとって外せない就活軸になっているようだ。

＜企業選びのこだわり度合い＞

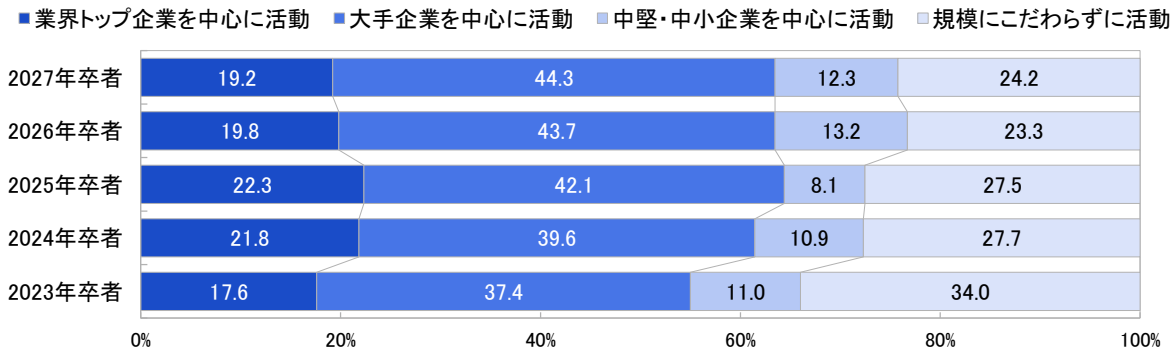


5．就職活動の中心におく企業の規模

就職活動の中心とする企業の規模を尋ねた。「業界トップの企業を中心に活動」19.2%、「大手企業を中心に活動」44.3%で、いわゆる大手志向の学生は今年も 6 割を超える（計 63.5%）。前頁の「企業選びのこだわり度合い」において、企業規模に強くこだわる学生は 2 割程度だったが、大手企業を活動の中心に据える学生は多い。売り手市場によって人気の大手企業に目が向きやすくなっている面もあるのだろう。寄せられたコメントを見ると「安定性」や「福利厚生」といった言葉が目立つ。

一方で、中堅・中小企業を中心におく学生や企業規模にこだわらない学生も一定数みられる。

＜活動の中心におく予定の企業規模＞

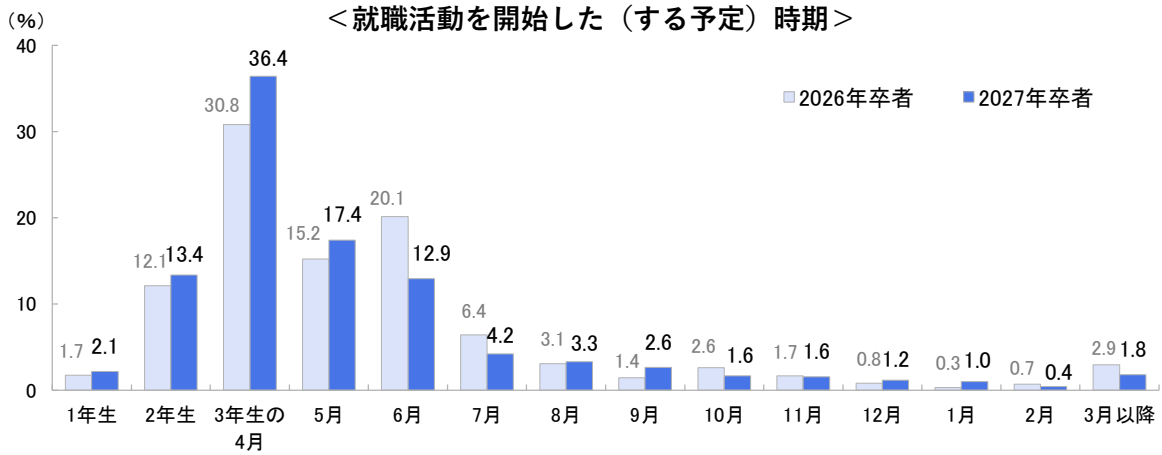


○社会的影響力が高く、潰れにくく、汎用性の高いスキルを得られると考えた。　＜業界トップ／文系男子＞
○規模が大きい企業は制度が整っていて働きやすいところが多いから。　＜大手企業／文系女子＞
○安定していて、福利厚生などもしっかりとしているから。　＜大手企業／理系男子＞
○地域に寄り添う企業に行きたい。　＜中堅中小／文系男子＞
○長く続けるには規模よりも働く人の雰囲気や仕事内容の方が大切だと思う。＜規模にこだわらない／文系女子＞

6．就職活動の開始時期

就職活動を開始した（する予定）時期を尋ね、2 カ年で比較した。今年も「3 年生の 4 月」が最多だが、より集中度合いが増している（30.8%→36.4%）。次点で「5 月」が多い（17.4%）、3 年生（修士 1 年）の進級時点から、夏季インターンシップ等の参加を目標に活動をスタートさせた学生が多い様子が読み取れる。また、僅かではあるものの 1 年生や 2 年生からという学生も増えるなど、全体的に動き出しが早まっていることがわかる。大手志向が早期の動き出しに繋がっている面もあるだろう。

＜就職活動を開始した（する予定）時期＞



※大学院生は、3年生＝修士1年生として回答

7．インターンシップ等の参加状況

インターンシップやオープン・カンパニー等のプログラムへの参加状況を日数別に尋ねた。「1 日以内のプログラム」に参加経験を持つ学生が 87.1%に上る。「2～4 日間」は 6 割近く（58.9%）が参加している。いずれの日数も前年より増加しており、特に「5 日間程度」の伸びが目立つ（12.8 ポイント増）。

参加社数は、「1 日以内のプログラム」が平均 7.0 社で前年（7.8 社）より減少。「2～4 日間」（2.7 社）、「5 日間程度」（1.6 社）、「2 週間以上」（1.1 社）はいずれも前年並み。

＜インターンシップ等経験率＞

（%）

	全　体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラム	87.1	83.0	85.7	88.6	81.9	93.2
2～4日間のプログラム	58.9	51.7	66.0	53.2	57.0	60.9
5日間程度のプログラム	39.5	26.7	38.9	30.8	56.5	48.1
2週間以上のプログラム	7.9	6.8	3.4	4.6	17.6	19.5

＜インターンシップ等参加社数／平均＞

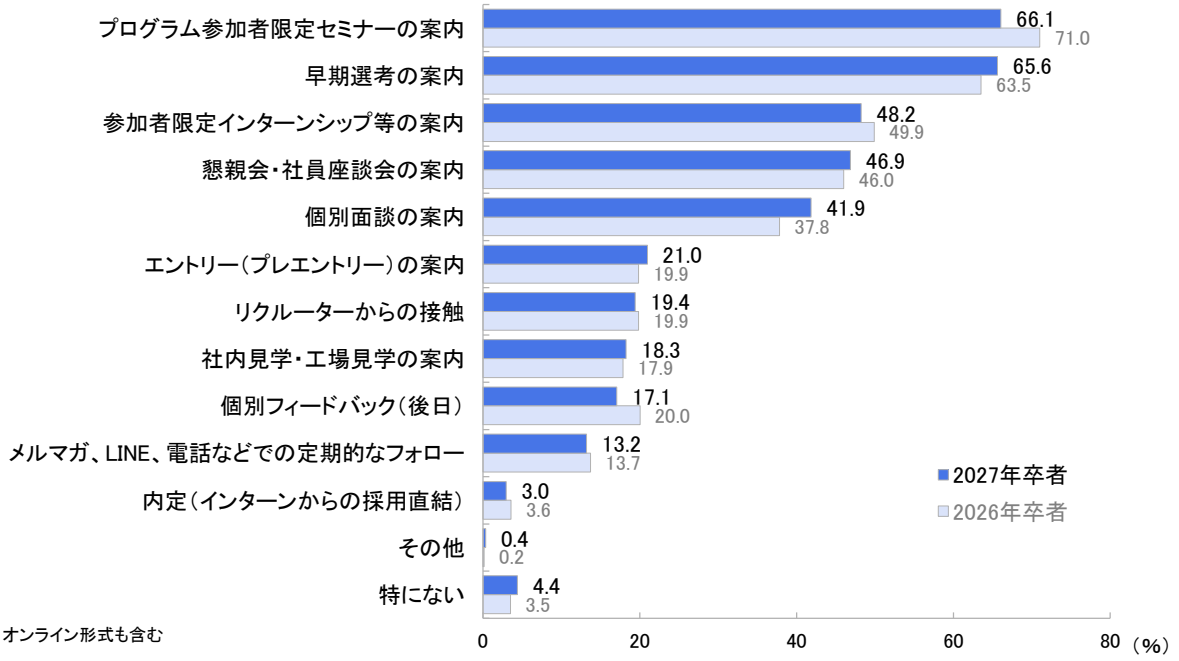
（社）

	全　体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラム	7.0	7.8	7.1	8.3	4.8	5.3
2～4日間のプログラム	2.7	2.7	3.0	2.8	2.3	2.2
5日間程度のプログラム	1.6	1.5	1.7	1.5	1.9	1.6
2週間以上のプログラム	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.2

※それぞれの参加者が分母

参加経験のある学生（全体の 91.6%）のうち、参加後に企業からフォローを受けた学生は 9 割強に上る（95.6%）。受けた内容として最も多いのは「プログラム参加者限定セミナーの案内」（66.1%）で、参加後も継続して自社を知ってもらう機会を用意する企業が多いことがうかがえる。ただし、前年より約 5 ポイント減少。僅差で「早期選考の案内」（65.6%）が続き、6 割以上が参加企業から本選考の案内を受けたと回答した。「参加者限定インターンシップ等の案内」（48.2%）や「懇親会・社員座談会の案内」（46.9%）が 4 割台に上るなど、理解を促す内容のフォローが広く行われていることがうかがえる。

＜インターンシップ等参加後に企業から受けたフォロー＞

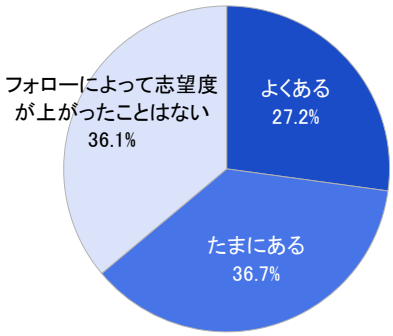


＊オンライン形式も含む

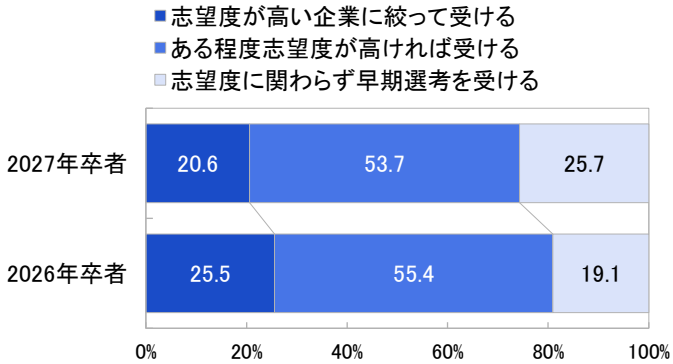
参加後に受けたフォローによって、その企業への志望度が上がった経験を持つ学生は、「よくある」（27.2%）、「たまにある」（36.7%）を合わせて 6 割強に上り（計 63.9%）、プログラム参加後のフォローによる志望度向上に一定の効果があることがわかる。

また、早期選考の案内を受けた場合の方針を尋ねた。最も多いのは「ある程度志望度が高ければ受ける」で半数を超える（53.7%）。「志望度に関わらず早期選考を受ける」（25.7%）は、前年より 6.6 ポイント上昇し、その分「志望度が高い企業に絞って受ける」（20.6%）が減少した。

＜フォローにより志望度が上がった経験＞



＜参加企業からの早期選考＞



■志望度や関心度が上がったフォロー

○個人面談で、インターン当日のフィードバックや就活全般に関する質問に快く答えていただいた。とても親身にお話ししてくださり、その企業の社風を体現していると感じた。＜文系男子＞

○参加時のアンケートの欄に書いた「知りたいこと」について、不安がなくなるように個別に答えてくれた。＜文系女子＞

○次のイベントとして、座談会や面談を案内してもらえたときは、もっと知ってみようと思えた。＜文系女子＞

○リクルーターを紹介していただき、個別面談で気になることを聞くことができた。＜理系女子＞

○オンライン面談の案内を受け、私のことを知ろうとしてくれていることが分かったので、こちらとしても志望度は上がった。＜理系男子＞

○フィードバックや個別面談の機会をもらい、自分が必要とされている感覚で、志望度が上がった。＜文系女子＞

○工場見学の機会が与えられたこと。＜理系男子＞

○適性検査結果のお渡し会があり、就活生一人ひとりを見てくれていると感じた。＜文系男子＞

○参加後のフォローがとても丁寧で、人との繋がりを重要視している企業だと感じた。＜理系男子＞

○早期選考に呼ばれると関心度は上がる。＜理系女子＞

○熱心に対応してくださる姿を感じて、このような温かい社風の企業に就職したいと思った。＜文系女子＞

■早期選考の案内を受けた場合の方針

○志望業界、志望職種であれば、面接の実戦練習を積むために、よほどマイナスな印象を受けない限り受ける。＜理系男子＞

○少しでも興味があれば、いつかその企業が第一志望になるかもしれないので受ける。ただ、その企業で働くイメージができなかった企業は受けない。＜文系女子＞

○早いうちに内定が欲しいから、面接やグループワークの経験を積みたい。＜文系男子＞

○選考を受ける中で志望度をより明確にすることができると思う。＜理系女子＞

○インターンシップに参加した時点でそこそこ志望度が高いため、大抵の企業は受けようと思う。＜理系男子＞

○集中して受けないと相手にも失礼だし、受からないと思う。＜文系男子＞

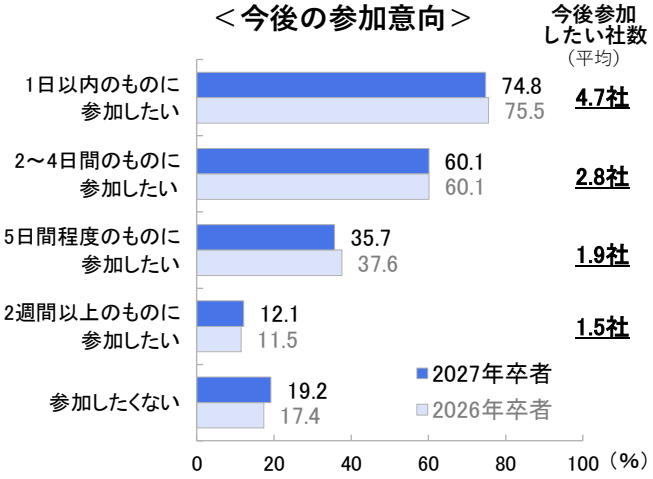
○準備に時間がかかるため、研究との両立を考え、志望度の高い企業に絞って受けたいと思う。＜理系女子＞

8．今後のインターンシップ等への参加予定

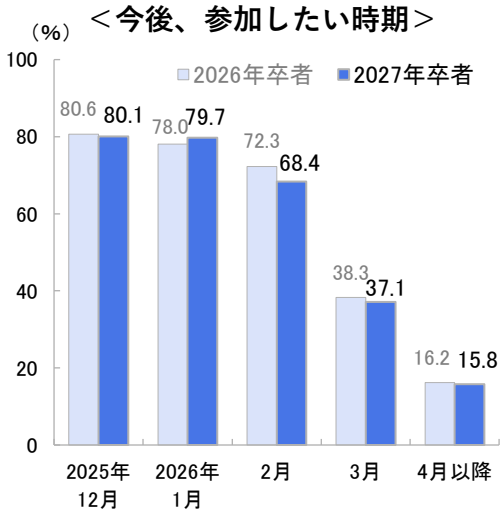
今後、「1日以内のものに参加したい」と回答した学生は7割を超える（74.8%）。「2～4日間」は6割（60.1%）に上り、引き続き参加を希望する学生が大半だ。

参加したい時期は「12月」（80.1%）が最も多く、僅差で「1月」（79.7%）が続く。「2月」は前年より減少したものの、7割近い学生が選んだ（68.4%）。本選考を見据えた企業選びや企業研究の一環として参加を希望する学生も多いとみられる。

＜今後の参加意向＞



＜今後、参加したい時期＞

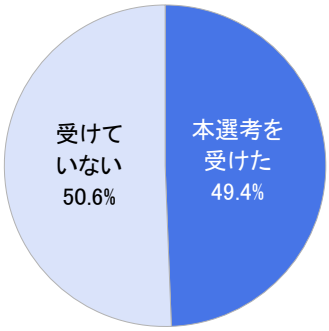


※大学院生、3年生＝修士1年生として回答

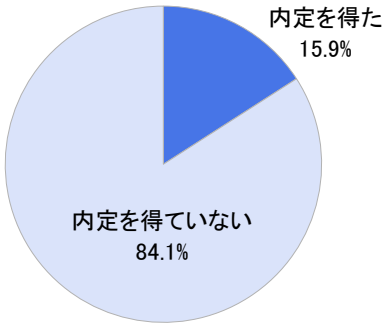
9．11 月後半時点の本選考受験状況と内定状況

本選考（採用選考）の受験状況を尋ねたところ、筆記試験や面接など「本選考を受けた」という回答が49.4%で、半数近くが早くも本選考を経験していた。受験社数の平均は3.2社。そのうち、インターンシップ等に参加した企業が2.0社。内定状況については、「内定を得た」との回答が15.9%。前年同期のデータはないが、かなり高いと言っていいだろう。（参考：2026年卒者の1月時点の内定率＝27.9%）

＜本選考の受験有無＞



＜内定の有無＞



	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
本選考を受けた	49. 4%	49. 3%	50. 5%	48. 2%	47. 4%
選考受験社数（平均）	3. 2社	3. 9社	2. 8社	3. 4社	2. 3社
うち、インターンシップ等参加社数（平均）	2. 0社	2. 5社	1. 8社	1. 9社	1. 5社

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得た	15. 9%	18. 7%	12. 9%	20. 7%	11. 3%
内定社数（平均）	1. 4社	1. 4社	1. 3社	1. 4社	1. 3社
うち、インターンシップ等参加社数（平均）	1. 1社	1. 2社	1. 0社	1. 0社	0. 9社

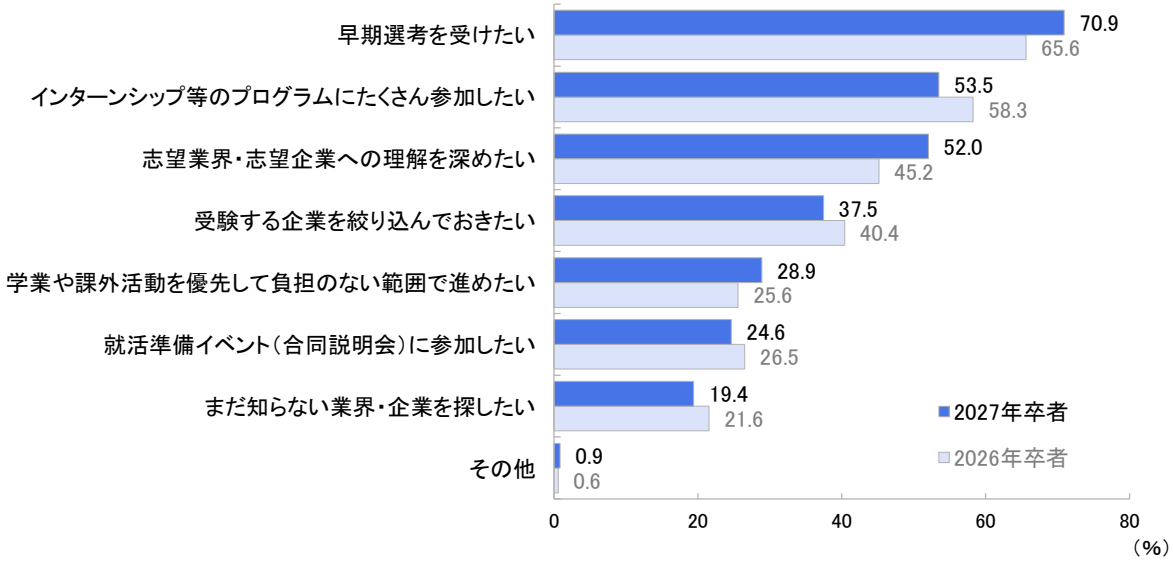
10. 年内の活動（準備）の進め方・方針

年内の準備や活動の方針を尋ね、前年の調査結果と比較した。最も多いのは「早期選考を受けたい」で、前年より5ポイント余り増え、今年は7割超が選択した（70.9%）。前頁で見たように、調査時点で約半数がすでに本選考を受けていた。まだ受けていない学生はもちろん、受験経験のある学生も、年内に選考経験を積みたい、あるいは内定獲得に近づきたいと考えている学生が多いようだ。

次いで「インターンシップ等にたくさん参加したい」（53.5%）と、「志望業界・志望企業への理解を深めたい」（52.0%）が5割強で続く。いわゆる持ち駒となりそうな企業を探しつつも、ある程度志望業界や企業を定めた上で、より深く理解していきたいという意向がうかがえる。

意中の企業の内定獲得に向け準備に取り組む一方で、「就活準備イベント（合同説明会）に参加したい」（24.6%）、「まだ知らない業界・企業を探したい」（19.4%）など、もっと多くの企業に出合いたいと考える学生も一定数見られる。

＜年内の就活（準備）の方針＞



■年内の就活（準備）の方針

○既に複数企業のインターンシップに参加したため、ここからは夏インターンの選考に落ちた企業を中心に難易度の高い企業のインターンに挑戦したり、早期選考を受けて内定に繋げたい。　＜理系女子＞

○興味がある業界を絞り込んで、就活の軸を決めたい。また早期選考を受けて、面接や筆記試験に慣れたい。　＜文系女子＞

○早期選考を受け面接経験を積みつつ(あわよくば内定)、来年の一般選考を目指す。　＜理系男子＞

○とにかく合同説明会や志望業界のインターンシップに参加しまくって少しでも見識を深めたい。　＜文系男子＞

○就活を進めてみて、まだまだ広く調べる必要があると感じている。また、志望業界に迷いが出てきたので、詳しく調べなおしたい。　＜文系女子＞

○受ける業界はある程度絞れたため、企業研究をしっかり進めたい。　＜文系男子＞

○早期選考のエントリーシート提出と面接の経験を積みつつ、冬インターンの応募を行う。ただし、大学院の研究も進めなければならないので、やるべきことの優先順位をきちんとつけていこうと思う。　＜理系男子＞

○学業で大事な発表を控えているため無理のない範囲で就活をしたいが、情報を集めて早く就活を終わらせたい気持ちもある。　＜理系女子＞

○まだ見ていない業界にも目を向け、可能性を広げたい。　＜文系男子＞

○早期選考が進むと思うため、それに向けた対策をしつつ、本命の企業の業界研究も進めていきたい。　＜文系女子＞